

美しい角度で、生きていく。

新感覚。美容液とひとつになった、引き締め泡乳液 『B.A ミルク フォーム』 誕生

株式会社 ポーラ（本社：東京都品川区、代表取締役社長：及川 美紀）は、ポーラ最高峰ブランド「B.A」よりブランド初のアイテムとして、美容液とひとつになった引き締め泡乳液『B.A ミルク フォーム』（84g ¥13,200 <税抜 ¥12,000>）を2023年4月1日に発売（旗艦店ポーラ ギンザでは2月1日より先行発売）します。

「B.A」は1985年に誕生。“人の可能性は広がる”というポリシーを掲げ、肌領域に関わらず、脳・神経科学や心理学、感性工学など多角的に研究を深め、進化を続けています。

B.Aは、ニューノーマルな生活で人と会う機会が減ったこと、マスク生活の長期化などから、もたつき・ハリなさなどによる顔印象を気にする声が増加していることに着目。肌のもたつき・ハリは、顔全体の印象に影響し、引き締まったハリ肌は、気持ちが上向きでポジティブな印象につながることで、新たにわかりました。

◆『B.A ミルク フォーム』の特長

【理論】引き締まったハリ肌をポジティブな印象につながることに着目。引き締まったハリ肌を目指す「テンションネットワーク」理論を採用。

【配合成分】新ポーラオリジナル複合保湿成分「白桜バークV※1」

みずみずしい透明感をサポート：ポーラオリジナル保湿成分「YACエキス」「EGクリアエキス」
保湿成分「マジョラムエキス」

うるおいによるハリ感をサポート：ポーラオリジナル複合保湿成分「BAコアリキッド」
保湿成分「レモンガラスエキス」

ハリ肌をサポート：ポーラオリジナル複合保湿成分「仙人穀ロスマ」

【処方】2種のポリマーの組み合わせと2種のガス（炭酸ガス・DME<ジメチルエーテル>）で作られる泡によって、なめらかで心地よい泡乳液がほぐれて、引き締めベール（テンションベール）に変わる新処方「バンテージングフォーム処方」を採用。炭酸ガスの配合によるpH変化（中性→酸性→中性）で、みずみずしくなめらかな感触と、ハリ感※2・引き締め感を両立することを目指します。



全国のポーラビューティーディレクター、コスメ&エステショップ「ポーラザビューティー」約590店舗を含む約3,200店のポーラショップ、旗艦店「ポーラギンザ」、全国有名百貨店等ポーラコーナー67店舗（2021年末時点）、日本国内空港免税店コーナー12店舗、ポーラ公式オンラインストア（net.pola.co.jp）にてお取り扱いします。海外では、中国大陸・香港・台湾・マカオ・タイランド・シンガポール・マレーシア・ベトナムの8つの国と地域、中国（海南島）・韓国の免税店にて順次発売予定です。

2023年4月1日発売（旗艦店ポーラギンザでは2月1日より先行発売）

B.A ミルク フォーム

<保湿乳液・美容液>

84g ¥13,200（税抜 ¥12,000）

◆アレルギーテスト済み（全ての方にアレルギーが起きないというわけではありません）

※1：シラカバ樹皮エキスとオウレン根エキスの複合成分 ※2：うるおいによる



美しい角度で、生きていく。

乳液に、次の使命を。
うるおうだけではもう足りない。

新時代、マルチタスクをこなす肌は
いつのまにか疲労を重ねていた。
失われるハリ、もたつき。
鏡に映るのは、知らないシルエット。
本来の自信を取り戻したい。

新・B.A ミルク フォーム、誕生。
乳液は、美容液とひとつになった。
炭酸泡がはじけて、引き締めベールに
変わる新処方。キレのある横顔とハリ感を。

全方位、美しさに隙はない。
どこを向こうと、自由だ。

攻める乳液。その泡は、引き締める。
新・B.A ミルク フォーム、誕生。



美しい角度で、生きていく。
新感覚。美容液とひとつになった、引き締め泡乳液

新『B.A ミルク フォーム』誕生

1985年、年齢とともに変化する肌を科学するために、B.Aは誕生しました。
“人の可能性は広がる”というポリシーを掲げ、肌領域に関わらず、
脳・神経科学や心理学、感性工学など多角的に研究を深め、進化を続けています。

B.Aは、ニューノーマルな生活で人と会う機会が減ったこと、マスク生活の長期化などから
もたつき・ハリのなさなどによる顔印象を気にする声が
年代問わず増加していることに着目。

「オンライン会議で自分の顔を見る機会が増え、ふとした時に画面に映る自分の顔にはっとする」
「久しぶりに直接、人と会う時、顔を見られるのが怖くてマスクを取りたくない」などの、
お悩みの声があります。

今回、肌のもたつき・ハリの状態は、顔全体の印象に影響し、
引き締まったハリ肌は、気持ちが上向きでポジティブな印象につながることで、新たにわかりました。

新B.A ミルク フォームは、美容液とひとつになった引き締め泡乳液。
2種のポリマーの組み合わせと2種のガスで作られる、なめらかで心地よい泡乳液がほぐれて
引き締めベールに変わる新処方「バンテージングフォーム処方」を採用。
引き締まったハリ肌を目指します。

2023年4月1日発売（旗艦店ポーラ ギンザでは2月1日より先行発売）

B.A ミルク フォーム

<保湿乳液・美容液>

84g ¥13,200(税抜 ¥12,000)

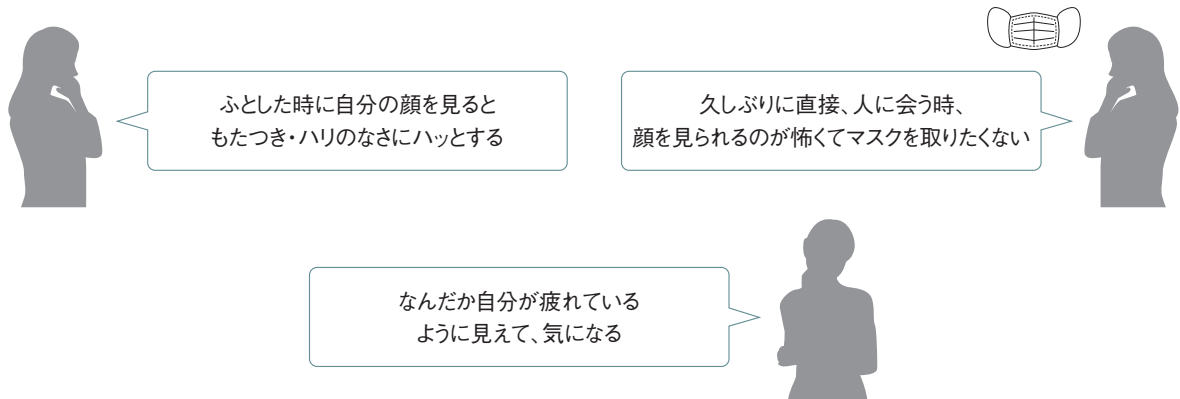
◆アレルギーテスト済み
(全ての方にアレルギーが起きないというわけではありません。)



POLA

幅広い年代で増加する、もたつき・ハリのなさに関する悩み

ニューノーマルな生活では、オンライン会議の増加やマスク生活が長期化し、ふとしたときに自分の顔を見ると、もたつき・ハリのなさなどによる顔印象を気にしたり、久しぶりに直接、人に会う時、マスクを取りたくないなどのお悩みの声が増えています。B.Aリサーチセンターは今回、これらの声に着目しました。



顔のもたつきの違いによる、人の印象への影響

下のイメージ画像は、わずかにもたつきを変化させた、“もたつきがない”画像と“もたつきがある”画像の一例です。2枚の画像を男女400名の方に見比べていただいたところ、“もたつきがない”画像の方が、「気持ちが上向き」「ポジティブ」と、より感じるようになりました。もたつきは、人の印象に影響することがわかりました。

【イメージ画像】
もたつきがない



【イメージ画像】
もたつきがある



2枚の画像を並べ、どちらの方が「気持ちが上向き」「ポジティブ」と感じるかを男女400名で評価した結果、“もたつきがない”画像の方が、より感じることを確認。

各評点に対し、1標本のWilcoxonの符号付順位検定により有意差を検出(有意水準5%)
実際の評価では実在の人物1名の画像を用いたが、ここでは例として複数人物の合成データから加工した画像を示す。

(B.Aリサーチセンター調べ)



[製品特長]

引き締まったハリ肌を目指す、美容液とひとつになった泡乳液

理論

◆ NEW テンションネットワーク理論

引き締まったハリ肌がポジティブな印象につながることに着目。引き締まったハリ肌を目指す理論。

成分

◆ NEW ポーラオリジナル複合保湿成分「白桜バークV[®]」を配合。



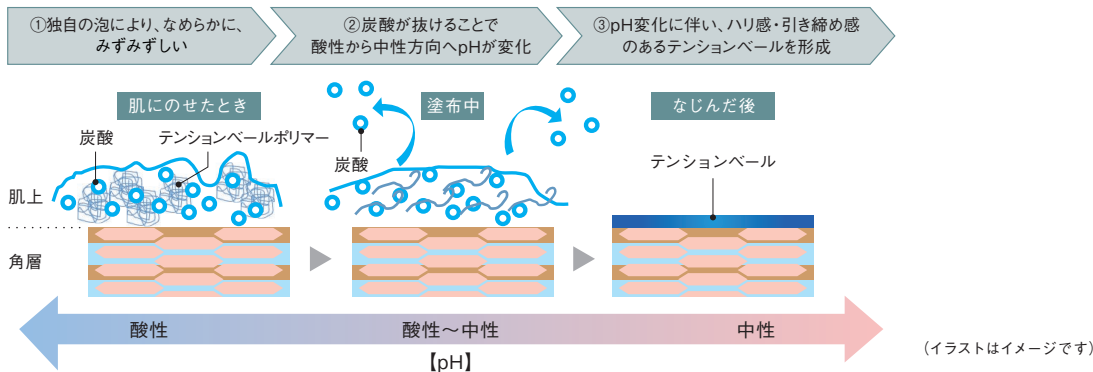
- ◆ みずみずしい透明感をサポート: ポーラオリジナル保湿成分「YACエキス」「EGクリアエキス」保湿成分「マジョラムエキス」を配合。
- ◆ うるおいによるハリ感をサポート: ポーラオリジナル複合保湿成分「BAコアリキッド」保湿成分「レモングラスエキス」を配合。
- ◆ ハリ肌をサポート: ポーラオリジナル複合保湿成分「仙人穀ロスマ」を配合。

※: シラカバ樹皮エキスとオウレン根エキスの複合成分

処方

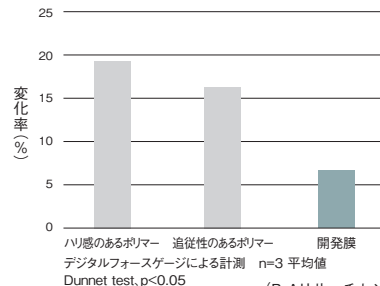
なめらかで心地よい泡乳液が引き締めベールになるバンテージングフォーム処方

2種のポリマーの組み合わせと2種のガス(炭酸ガス・DME<ジメチルエーテル>)で作られる泡によって、なめらかで心地よい泡乳液がほぐれて、引き締めベール(テンションベール)になる新処方「バンテージングフォーム処方」を採用。炭酸ガスの配合によるpH変化(中性→酸性→中性)で、みずみずしくなめらかな感触と、ハリ感*・引き締め感を両立することを目指します。



【特長①】ハリ感のあるポリマーと追従性のある柔軟なポリマーを独自のバランスで組み合わせ、ハリ感・引き締め感のあるテンションベールを開発

右のグラフはそれぞれのポリマー単体と、独自のバランスでポリマーを組み合わせたベールの、ハリ感・引き締め感の比較です。変化率が小さいほど、膜が劣化しないことを示しています。今回、2種のポリマーを独自のバランスで組み合わせて開発したテンションベール(開発膜)は、肌の動きに追従し膜の劣化を防ぐことで、ハリ感・引き締め感が続くことを目指しました。



人工皮革上にポリマーフィルムを形成させ、顔の動きを想定し、一定距離を引き延ばすということを繰り返し行った。一定距離引き延ばすために必要な力が、1回目と10回目での程度減少したかを評価

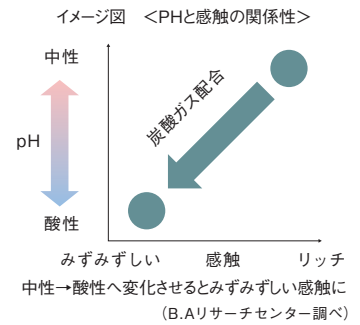
※: うるおいによる



[製品特長]

【特長②】 みずみずしい感触と、ハリ感・引き締め感の両立

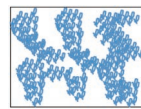
配合したポリマーの性質上、粘度が高くみずみずしくない感触になってしまうという課題がありましたが、炭酸ガスの配合によるpH変化(中性→酸性)で、みずみずしい感触のまま、ハリ感・引き締め感を両立しました。右のグラフは追従性のあるポリマーのpHと粘度の関係性を示したものです。pHが低く酸性であると粘度が低くみずみずしい感触に、pHが高く中性であると粘度が高く、リッチな感触になります。



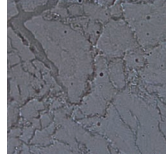
【特長③】 均一でなめらかなベールを形成し、ハリ感・引き締め感となめらかな感触を両立

右の2つの画像はポリマーのpHによる違いを表しています。炭酸ガスを気化し、酸性から中性に変化させることで、ポリマーが絡み合い、均一でなめらかなハリ感・引き締め感のあるテンションベールを形成しています。

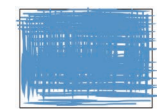
pHが酸性だと、ポリマーが縮まった状態で残ってしまい、ざらざらなベールになってしまう



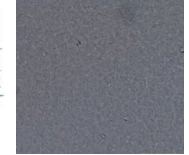
粒同士のつながりが弱く、膜が不均一に



pHが中性だと、ポリマーが溶けて絡み合い、均一でなめらかなベールになる



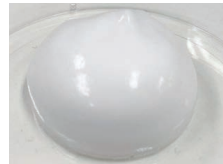
ポリマーが絡み合い均一に



【特長④】 DMEが泡をすばやく液状化することで、均一な引き締めベールを形成

炭酸ガスは泡立つ性質を持ち、DMEは泡を消す性質を持ちます。炭酸ガスで泡状態にしなが、DMEを組み合わせることで、すばやく液状に変化します。塗布中から塗布後までのベール形成がすばやいため、均一なベールによるハリ感・引き締め感をすばやく与えます。

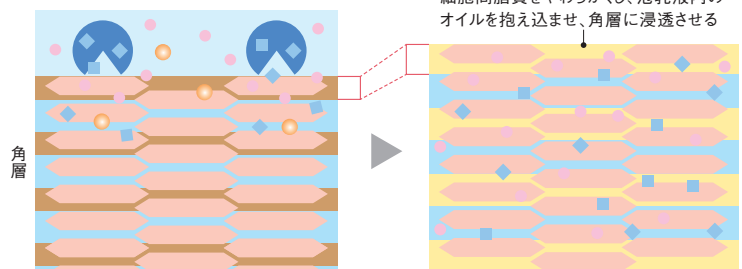
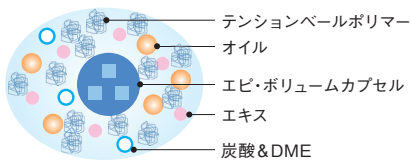
泡立つ性質を持つ炭酸ガス



泡を消す性質を持つDME



◆ エピ・ボリウムカプセルにより、泡乳液内のオイルを抱え込ませ、角層をやわらかく、ふっくらと整えます。



(イラストはイメージです)

感性品質

感触

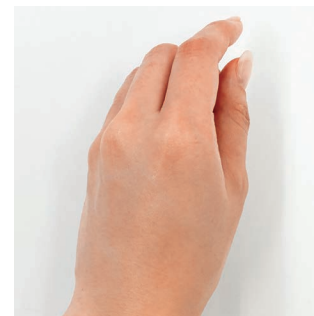
肌も気分もほぐれ包み込まれるような、リフレッシュ感のあるテクスチャーです。



清涼感のある
ひんやりみずみずしい泡



なめらかにほぐれながら、
液状に変化
気分もほぐれるようなリフレッシュ感



おさまったあとはべたつかず、スッキリとしているのに
包み込まれるようなリッチな後肌
やわらかくつややかな肌に

POLA



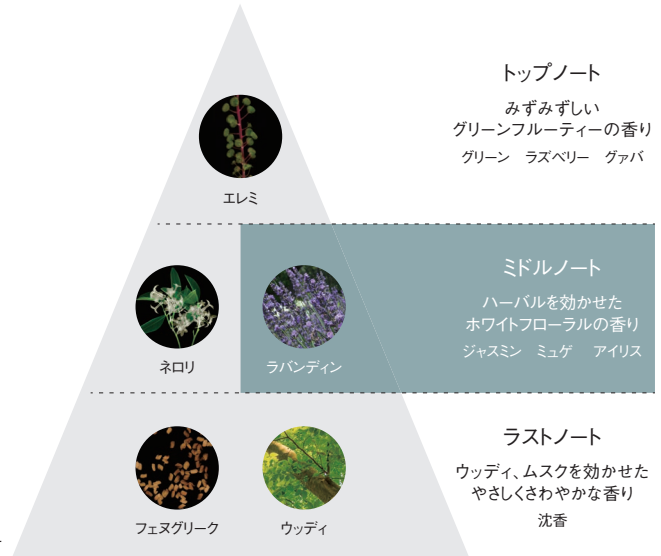
[製品特長]

香り

シプレフローラルアレンジメント

B.Aスキンケア共通で採用しているシプレフローラル調をベースに、スッキリとしたハーバルをプラスした香りです。
B.Aは、お手入れの時間を自分をいつくしむ時間へと昇華させるために、アイテム毎に移ろい重なっていく香り「シプレフローラルアレンジメント」を採用しています。

※写真はイメージです



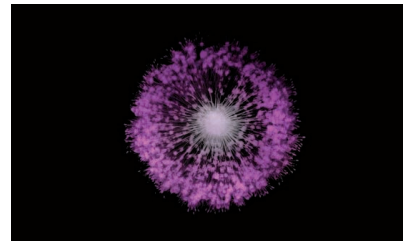
デザイン

パッケージデザインは、全方位に拡張する生命の躍動をコンセプトに360度はじけるように咲き広がる植物、アリウムの彫刻と、グラデーションによって透明感と全方位に動きを感じる生命感をボトルに込めました。



<植物モチーフ> アリウム

360度はじけるように咲き広がる植物。X線撮影による中心の核から全方位にダイナミックに広がる様子が特徴。キャップ天面・側面の彫刻に採用。



使用方法

通常の使い方



必ず容器を上下によく振り(5回以上)、手のひらに近づけて上向き使用で、適量(直径2.5cmの円位)を手に出す。

※極端に傾けてご使用になると液が残ることがありますので、垂直・上向きでご使用ください。



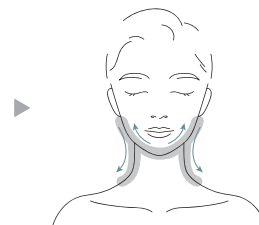
手に取った泡をつぶさないように額・両頬に置き、目に入らないように内から外に向かってのばす。

引き締まったハリ肌を目指すメソッド



(かみ合わせ)
歯をグッと噛み締めたときに動く部分

こぶしの関節の面全体で、かみ合わせを手前から奥に向かって円を描きながらほぐすようにプッシュ。(8回)



親指と人差し指でフェイスラインをすべらせた後、耳下を軽くプッシュし、ながすように鎖骨へ。

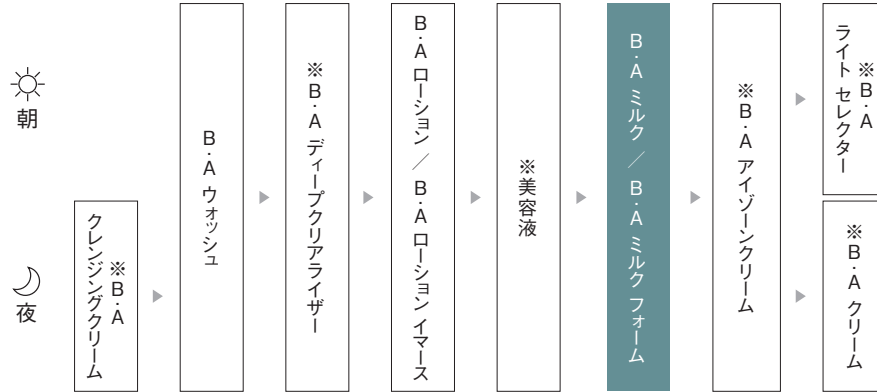
※泡に含まれるガスによる刺激感が気になる方は、手のひらで泡をつぶしてからお使いください。



頬をこめかみに向かって引き上げるようにのばす。



使用ステップ



※肌の悩み・状態に合わせてお使いください。クレンジングクリームは、メーク・UVカット品使用時は必ずお使いください。

社会・地球環境への取り組み

商品外箱



生物由来のインクを採用

生物由来の資源(バイオマス)から成分を抽出して製造したインクを一部使用し、箱への印字を行うことで、生態系の保護に繋げる。

森林認証紙を採用

適切な森林管理のもとに作られた木材を使用した、森林認証紙を採用。

容器



リサイクルPETを採用

リサイクルPETを一部に使用し、化石資源の保護や二酸化炭素の削減に貢献。

※PET: ポリエチレンテレフタレート

パンフレット



WEBパンフレットを採用

ペーパーレスへの取り組みとして、紙のパンフレットを廃止し、箱に記載されたQRコードを読み込むことで使用方法、全成分表示、使用方法動画が閲覧可能なWEBパンフレットを採用。

※使用方法・使用量などは外箱にも記載があります。
※5言語対応(日本語・英語・繁体字・簡体字・タイ語)

原料



フェアトレード香料の採用

「エレミ」「ネロリ」「フェヌグreek」は、フェアトレード原料から抽出した天然香料を使用。

主な配合成分

配合目的	配合成分	全成分表示名称
保湿成分	白桜バークV*	シラカバ樹皮エキス、オウレン根エキス
	YACエキス*	ヨモギエキス
	EGクリアエキス*	レンゲソウエキス
	仙人穀ロスマ*	センニンコク種子エキス、セージ葉エキス
	BAコアリキッド*	イガイグリコーゲン、ヘチマエキス、チョウジエキス、イザヨイバラエキス、加水分解コンキオリン
	マジョラムエキス	マヨラナ葉エキス
	レモングラスエキス	レモングラス葉／茎エキス
	エビ・ボリュウムオイルV*	シリカ、アルギニン、ペヘニルアルコール、ジメチコン、クエン酸、グリコール酸、ゼイン、PCAジメチコン

※は、ポーラオリジナル複合成分またはポーラオリジナル成分。 ◆無着色 ◆アレルギーテスト済み(全ての方にアレルギーが起きないというわけではありません)

現代ならではのライフスタイル

B.Aリサーチセンターは、近年、フェイスラインのもたつきを気にされている声が多いことから、その方たちの現代ならではのライフスタイルに着目しました。

- マルチタスク 睡眠不足 ストレスが多い スマホの過剰使用

新着目

なにげない日常で起こる「お疲れ脳」

前述した、現代ならではのライフスタイルによって、“脳が疲れている”と感じる方が多いことがわかりました。ストレスやマルチタスクなどによって、脳が疲れたと感じる状態のことを、「お疲れ脳」と名付けました。

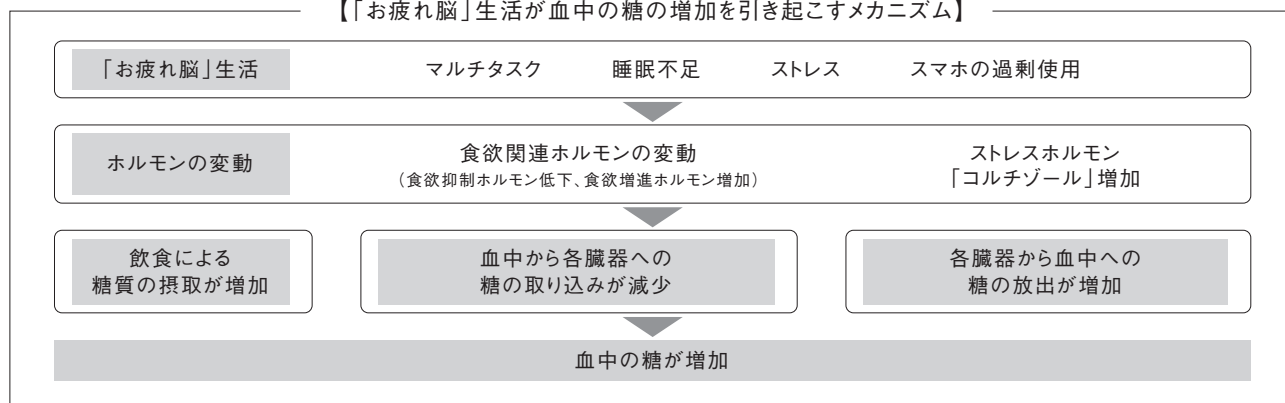
お疲れ脳：ストレスやマルチタスクなどによって、脳が疲れたと感じる状態

新着目

「お疲れ脳」を引き起こす生活習慣が血中の糖を増加させる

B.Aリサーチセンターは、このような「お疲れ脳」を引き起こす生活習慣が、血中の糖を増加させることに新たに着目しました。「お疲れ脳」を引き起こす生活習慣は、食欲関連ホルモンやストレスホルモンを変動させることにより、飲食による糖質の摂取が増加、血中から臓器への糖の取り込みが減少、臓器から血中への糖の放出が増加し、結果的に、血中の糖の増加につながってしまうと考えられます。

【「お疲れ脳」生活が血中の糖の増加を引き起こすメカニズム】



このようなメカニズムで、血中の糖が多い状態になると、脂肪細胞にさまざまな影響を与えることが知られています。

新発見

血中の糖が多いと脂肪細胞に影響し、「もたつきネットワーク」を形成

B.Aリサーチセンターは「お疲れ脳」生活で血中に増加する糖が、脂肪細胞を介して肌へも影響を及ぼしているのではないかと考え研究を深めたところ、「もたつきネットワーク」が形成されてしまうことを新たに発見しました。

血中の糖が多いと、脂肪細胞が中性脂肪をため込み肥大するとともに、真皮に対し、弾性線維の合成を抑制するメッセージを発することを解明し、そのことを「もたつきネットワーク」と定義しました。

「もたつきネットワーク」のメカニズムと肌への影響

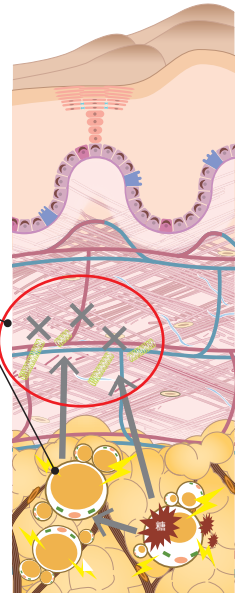
「お疲れ脳」生活で血中の糖が多くなると、糖が脂肪細胞に取り込まれ、脂肪細胞は中性脂肪をため込み肥大化します。また、脂肪細胞から発せられるIGFBP2というメッセージ物質の産生が増加します。

このメッセージ物質は、脂肪細胞が肥大化しすぎるのを防ぐために出されると考えられますが、真皮に悪影響を及ぼし、エラスチンやMFAP4などの肌の弾力を維持するために必要なものを減らしてしまうことがわかりました。その結果、ハリ・弾力の低下を招き、メリハリのないもたついたフェイスラインにつながってしまうと考えられます。

IGFBP2: インスリン様成長因子結合タンパク質2。
 インスリン様成長因子に結合して作用を阻害するなどして、細胞に様々な影響を与える。

- ① 中性脂肪の蓄積が増加し肥大化
- ② 真皮の弾力を抑制する
 メッセージ物質 (IGFBP2) が増加
 → エラスチン・MFAP4が減少

↓
 ハリ・弾力の低下を招き、
 フェイスラインのもたつき・たるみにつながってしまう

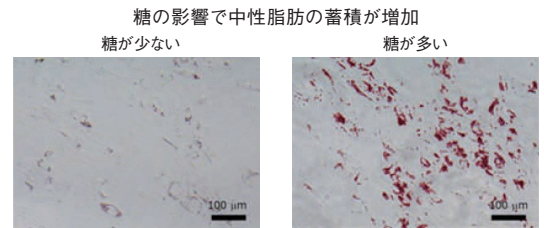


※イラストはイメージです

もたつきネットワーク (皮下への影響)

右の2つの画像は、糖が少ない状態と、多い状態で中性脂肪の蓄積を比較した画像です。赤く染まっている部分は、脂肪細胞中に蓄えられた中性脂肪です。

このように、糖が多い状態だと、脂肪細胞は中性脂肪を多く蓄えてしまうことがわかります。このことから、血中の糖が増える生活をしていると、脂肪の蓄積が進み、フェイスラインのボリューム増加につながると考えられます。



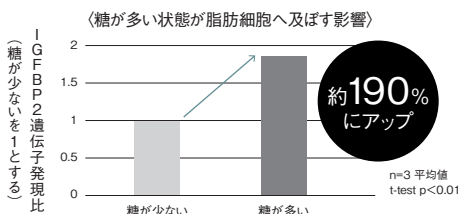
糖の影響で中性脂肪の蓄積が増加
 糖が少ない 糖が多い
 脂肪細胞を糖が少ない/糖が多い環境下で 赤: 中性脂肪
 培養後、中性脂肪を染色し、観察
 (B.Aリサーチセンター調べ)

もたつきネットワーク (真皮への影響)

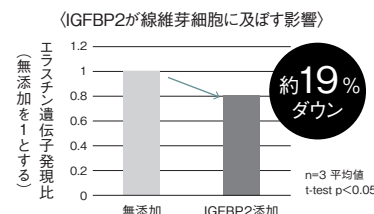
新発見

糖が多いと、脂肪細胞から発せられるメッセージ物質 (IGFBP2) が増加
 IGFBP2は線維芽細胞に影響を与え、肌のハリ・弾力の要となるエラスチンとMFAP4を減少させる

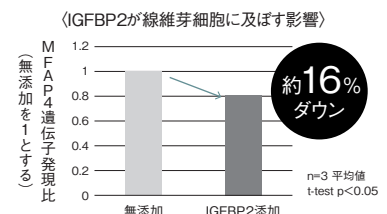
B.Aリサーチセンターは、血中の糖が多くなると、脂肪細胞から発せられるIGFBP2というメッセージ物質の発現量が増加すること、真皮の線維芽細胞にメッセージ物質IGFBP2を添加すると、肌のハリ・弾力の要となるエラスチンの発現量、およびエラスチンを束ねるMFAP4の発現量を、減少させてしまうことを新たに発見しました。



脂肪細胞を糖が少ない/糖が多い環境下で培養し、IGFBP2の遺伝子発現を解析
 IGFBP2: インスリン様成長因子結合タンパク質2。



線維芽細胞にIGFBP2を添加して培養し、エラスチンの遺伝子発現を解析



線維芽細胞にIGFBP2を添加して培養し、MFAP4の遺伝子発現を解析
 (B.Aリサーチセンター調べ)

血中の糖が増える生活をしていると、脂肪の蓄積を進めてフェイスラインのボリュームを増加させるだけでなく、メッセージ物質IGFBP2を介して真皮の弾性線維の合成を減らしてしまい、ハリ・弾力の低下を招き、フェイスラインのもたつき・たるみにつながってしまうと考えられます。